



アブラナの育て方



●基礎知識

科名：アブラナ科
 別名：ナタネ、ナノハナ
 原産：西アジアから北ヨーロッパ
 採油目的の栽培が盛んである。

●栽培に必要な準備物

たね、苦土石灰、化成肥料、移植ごて、じょうろ など

●3年の学習との関連

モンシロチョウの幼虫にキャベツの葉を与えて飼育した。キャベツは、アブラナ科の植物で、モンシロチョウの幼虫は、アブラナ科の植物を食べる。

●5年の学習との関連

花は、めしべ、おしべ、花びら、がくなどからできていて、おしべの先には花粉があることや、花が咲いたあと、めしべが実になり、実の中に種子ができることをとらえる。

※栽培暦は、関東地方を標準にしたものです。

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
土づくり	たねまき		間引き・追肥①			追肥②		開花		採種	花壇整備

土づくり

栽培場所選び
 水もちの悪い土壌や、すぐ乾燥する場所は避けること。

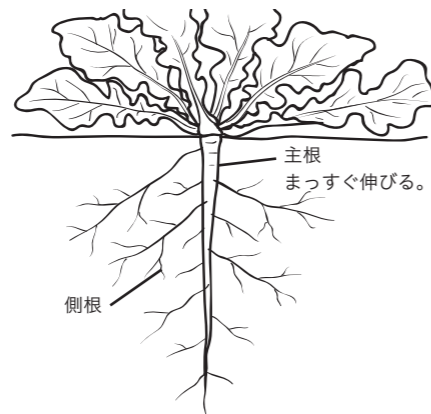
- ①たねまきの2週間前に、苦土石灰を入れて耕す。
 ※土が酸性であるとアブラナの栽培で注意が必要な「根こぶ病」を引き起こしやすくなるため、苦土石灰の施用は欠かせない。
- ②たねまきの1週間前に、1㎡当たり1.5kgの堆肥と1㎡当たり60～80gの化成肥料を混ぜて再度耕す。



苦土石灰が土になじんで中和するまで、1週間ほどかかる。

たねまき

アブラナは、主根が太くまっすぐ伸びるのが特徴で、植え替えには向かない。傷つくと水や栄養をうまく吸収できず根づかなくなるため、直接花壇などにまく。



種子を、30cm 間隔で5～6粒ずつまき、2mm ほど薄く土をかける。たねまきを終わったら、種子が流されないよう、丁寧に水をやる。水は、土全体が湿る程度でよい。

間引き

本葉が5～6枚になったら、育ちの遅い苗や、密集している苗などを間引きする。
 子葉がきれいなハート形で左右対称に出ているかどうかで生育のよい苗を見分けることができる。また、間引きの目安は、苗が20～30cm 間隔になる程度がよい。



なお、間引きで抜き取った苗の葉を、みそ汁の具やおひたしなどにして食べることもできる。

追肥

追肥①
 間引きを終えたら1回目の追肥を行う。
 苗と苗の間に、化成肥料をまく。

追肥②
 冬の間、成長が止まったかのように見えるが、春先からまた成長を再開するため、2回目の追肥を行う。
 追肥の方法は、1回目と同様でよい。
 また、この時期は鳥の食害に遭いやすい。ネットを張るなどして対策をするとよい。

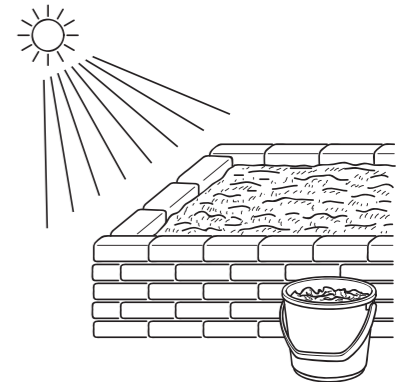
開花・採種

開花
 約1か月かけて、下の方から順に花を咲かせる。上の方の花が咲くころ、下の方には若い実ができてきているので、上から下へ追っていくと花から実へ変化する様子をとらえることができる。

採種
 花が枯れ、実が茶色く乾燥したら、採種の時期である。
 花軸ごと抜き取り、片面3～4日ずつ天日干しをして、しっかりと乾燥させ、種子を採る。
 実が熟しすぎると、自然にさやが割れ、種子が落ちてしまうので、採種のタイミングには注意が必要である。

花壇整備

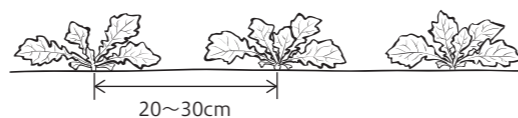
土は、植物を育てることで、栄養バランスに偏りが生じ、細菌が繁殖するなどして劣化し、次に育てる植物が成長不良を起こしたり、根腐れを起こしやすくなってしまったりしてしまう原因となる。
 栽培を終えたら、何度も土を掘り起こしながら、雑草や根などを取り除き、腐葉土などを混ぜて、栄養を与えておくことよい。
 また、連作障害を避けるため、次に栽培する植物はアブラナ科以外のものを選ぶとよい。



■アブラナが好む環境

日当たりと排水のよい環境を好む。土の排水性が悪い場合は、種子をまいた周囲に排水用の溝を掘り、水が溜まらないように工夫するとよい。日照が続いて土が乾いている場合には水やりをするとよいが、地植えの場合は降水だけで十分である。

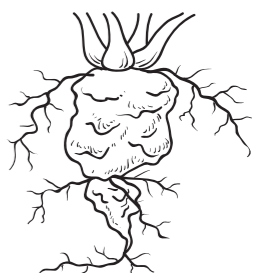
寒さに強い耐寒性である。冬の時期は成長が止まるが、春先になると、また成長を再開する。また、冬の気温が下がった年ほど、春にはたくさん花を咲かせる。



間引きして、株と株の間隔をとることによって、日当たりを確保することができる。

■根こぶ病に注意

根こぶ病とは、アブラナ科の植物だけに発生する病気である。名前のとおり、感染した根にはこぶができ、土の中の栄養を吸収する力が衰えてしまう。根こぶ病にかかると、日中に葉や莖がしおれ、夕方には回復する状態を繰り返し、生育不良となり、枯れてしまうこともある。
 根こぶ病は、酸性の土や水分量の多い土で栽培することで発生率が高くなる。たねまきの前に石灰を混ぜて、土の酸性度を酸性にならないように調整し、排水性には十分に注意する必要がある。
 もし根こぶ病にかかった株があれば、根を残さないように注意しながら、すぐに抜き取ること。



根こぶ病にかかったアブラナの根